

科目名	英語圏の文化と社会Ⅰ		担当教員	大石 晴美	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ECU101
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	到達目標：英語圏の文化や社会を理解し、世界中で使われるさまざまな英語の特徴を文化的、社会的、言語的側面から分析することが目標である。そして、異文化においてさまざまな英語を使用する人々との相互理解に結び付ける。テーマ：世界の英語を文化的・社会的・言語学的に調査する。				
授業の概要	3つの英語圏（①母語話者としての英語、②公用語・第二言語話者としての英語、③国際語・共通語としての英語を使用する地域）でさまざまな社会環境で使用されている英語の社会的背景と現状および文化や習慣について理解する。プレゼンテーションでは、各自で文献調査をし、英語圏の社会的、文化的、言語的特徴を発表し、異文化理解における留意点を検討する。中学校、高等学校の英語科教育にあたって、英語の指導だけでなく、英語圏における社会的、文化的背景の指導の重要性を確認する。				

授業計画	
第1回	講義概要説明
第2回	3つの英語圏、21世紀の英語話者：言語使用に影響を与える歴史的・社会的背景
第3回	英語を母語とする国1：イギリスの社会的背景と現状
第4回	英語を母語とする国2：アメリカとカナダの社会的背景と現状
第5回	英語を母語とする国3：オーストラリアとニュージーランドの社会的背景と現状
第6回	英語を母語とする国4：そのほかの地域の社会的背景と現状
第7回	英語を公用語、第2言語とする国1：インドとその周辺地域の社会的背景と現状
第8回	英語を公用語、第2言語とする国2：東南アジアの社会的背景と現状
第9回	英語を公用語、第2言語とする国3：アフリカの社会的背景と現状
第10回	英語を公用語、第2言語とする国4：カリブ海域の社会的背景と現状
第11回	英語を公用語、第2言語とする国5：そのほかの地域の社会的背景と現状
第12回	英語を国際語、共通語とする国1：ヨーロッパの社会的背景と現状
第13回	英語を国際語、共通語とする国2：中東における社会的背景と現状
第14回	英語を国際語、共通語とする国3：東アジアの社会的背景と現状
第15回	英語圏の文化と社会についてのまとめ

事前学修	2時間	文献調査と発表準備
事後学修	2時間	発表のまとめ
フィードバックの方法	リアクションペーパーの内容についてコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	プレゼンテーション
レポート	30%	
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業への参加度
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
World Englishes 入門	大石晴美編著	昭和堂	978-4812222263	初回の授業までに購入してください。
参考資料				

科目名	英語圏の文化と社会 II		担当教員	有為楠 香	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2ECU402
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	「到達目標」：イギリスの文化と社会の基盤となっている、イギリスおよび英語の歴史を理解し身につける。また、現代のイギリスの文化と社会について、その由来となった歴史的事象を理解し、資料を読み解いて考察を行う。「テーマ」：イギリスの歴史を政治・商業・産業の三つの観点から読み解く。				
授業の概要	イギリスの文化と社会について、歴史・言語・民族・文学・宗教・風土・王室・政治・教育・生活などを重点的に学ぶ。ひとつの国の文化・社会を知るには、現在の姿を見るだけでは不十分であるため、古代から話を始めて概説的に授業を行う。				

授業計画	
第1回	【授業概略説明：イギリスの4つの地域の名称・ケルト人とローマ文化】ブリテンの歴史の始まり
第2回	【アングロサクソン文化とノルマン・コンクエスト】大陸の影響と英語の発展
第3回	【ばら戦争とウィリアム・カクストン】内戦と印刷術、貴族の武力の時代から王権の時代へ、そして一般庶民の教育
第4回	【ヘンリー8世と英国国教会の成立・エリザベス1世時代】イングランドの発展、海上の小国から帝国につながる野心
第5回	【英国ルネサンス・近代英語とシェイクスピア】エリザベス1世時代の文化、演劇の大流行とシェイクスピア作品
第6回	【清教徒革命】議会と国王の対立
第7回	【イングランド共和国から王政復古へ】内戦と国王の処刑、オリバー・クロムウェルの共和国、そして再び王政へ
第8回	【イギリスの植民地政策】17世紀から19世紀にかけての、東インド会社によるインド支配。植民地貿易にもとづく大英帝国のにぎわい
第9回	【産業革命】蒸気機関の発明・農業革命・工業革命。貿易と工業を中心に、都市化されていく帝国
第10回	【ヴィクトリア朝時代・帝国の終焉】ヴィクトリア女王の時代に最盛期を迎えた大英帝国
第11回	【第一次世界大戦とさまざまな社会運動】第一次世界大戦がもたらした変化。女性参政権運動や、植民地の独立運動などの社会運動。全体主義の勃興から、第二次世界大戦へ。
第12回	【第二次世界大戦】第二次世界大戦時の首相であったウィンストン・チャーチルを中心に、大戦のなりゆき。彼が国威発揚のために使用したラジオ演説。
第13回	【冷戦時代・ビートルズ】東西冷戦の時代と、1960年代の若者文化。グループアイドル文化の始祖とも言えるビートルズの活動。
第14回	【サッチャーから21世紀へ】"サッチャリズム"の名を残したサッチャーの政治。自由主義経済による、激しい競争社会の時代。
第15回	授業全体の総括と復習テスト

事前学修	2時間	毎週、事前学習として、英語の教科書を読む課題を指定する。次回授業のために、教科書と辞書を使った日本語訳の予習を行うこと。
事後学修	2時間	授業で説明された内容をノートにまとめなおし、復習しておくこと。図書館などを使い、自分でイギリス史に関する資料を探すこと。
フィードバックの方法	復習テストの後、授業内に一部の解説を行う。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	40%	第10回終了後に提出。授業内で扱った時代のイギリス社会について、参考図書を挙げ論じる能力を評価する。

上記以外の試験・平常点評価	60%	第15回の復習テストと小論文。授業の理解度と、指定されたテーマでイギリス社会を論じる能力を評価する。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Britain: Historical Tales [revised] エピソードで綴る 英国史[改訂版]	Bill Benfield / 和久豊	三修社	978-4-384-33408-1	¥2,000+税
参考資料	授業中にプリントで配布する。			

科目名	英語圏の文化と社会Ⅲ		担当教員	大石 晴美	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3ECU403
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ合衆国を中心とする英語圏の文化と社会に関する幅広い知識を身につける。 2. 課題を検討することで多様な立場の意見に耳を傾け、自分の意見を発信することができる。 3. リアクション・ペーパー、ディスカッションを通して、文章作成能力や自分の考えをアウトプットすることができる。 				
授業の概要	本講義は英語圏の国々に焦点を当て、それらの国々の文化を多様な分野から具体的事例を取り上げて、その歴史的背景、争点、多様な意見を検討することを目的とする。それにより、英語圏の国々の文化に対する幅広い関心を抱き、現代社会について分析し、ディスカッションをする。				

授業計画	
第1回	講義概要説明
第2回	アメリカの教育について（1）多言語多文化主義
第3回	アメリカの教育について（2）学校制度について
第4回	アメリカ社会について（1）養子縁組、代理出産について
第5回	アメリカの社会について（2）移民について
第6回	カナダの教育について（1）多言語多文化主義
第7回	カナダの教育について（2）教育制度について
第8回	カナダの社会について(1) 先住民について
第9回	カナダの社会について（2）移民について
第10回	オーストラリアの教育について（1）多文化主義
第11回	オーストラリアの教育について（2）教育制度について
第12回	オーストラリアの社会について（1）先住民について
第13回	オーストラリアの社会について（2）移民について
第14回	授業のまとめ（1）アメリカ、カナダ、オーストラリアの教育事情のまとめ
第15回	授業のまとめ（2）アメリカ、カナダ、オーストラリアの社会事情のまとめ

事前学修	2時間	毎回テーマに関するリーディング・アサシメント（プリント資料）を配布する。授業日までに必ず事前に読んでおくこと。
事後学修	2時間	授業最後の時間に書くリアクション・ペーパー（初回の授業で説明する）にその日の問題、または疑問点や考えさせられたことを書く。授業で配布するプリントを再度読んで、理解を深めておく。
フィードバックの方法	毎回のリアクション・ペーパーに対するフィードバックを翌週に行い、質問や疑問に対するコメント及びポイント解説を行う。さらに、受講生の関心をもとにディスカッションを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	プレゼンテーション
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業参加度とリアクション・ペーパー
上記以外の試験・平常点評価	10%	ディスカッション

定期試験	0%	実施しない		
補足事項				
教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業内で指定する	授業内で指定する	授業内で指定する	授業内で指定する	特になし
参考資料				